
罌

麻未夢

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

罨

【Nコード】

N 6 1 8 7 P

【作者名】

麻未夢

【あらすじ】

友人達や親に話せない悩みも、ネット上では楽に打ち明けられる。そして出会った彼女は、そんな私の悩みを真剣に聴いてくれたうえに、色々アドバイスをしてくれた。友人達と巧く行かずに悩む私だったが、学校に行くばかりが人生じゃないと教えられて、さっそく家に籠もるように。色々不安はあるけど、彼女の言う事に従っていれば大丈夫。私は本気でそう信じていた。

友達が居ないわけじゃないけど、でもだからって友達に何でも話せるってわけでもない。

だから私はネット掲示板で、悩みを打ち明ける事にした。

顔も名前も、本当の年齢も、どこに住んでいるののかも解らない人達に向けて、何もかもデタラメな公開プロフィールを作り、本音を打ち明けた。

勿論、酷い人だっている。

真剣な悩みを茶化したり、嘘だと断定してきたり、そんな人ばかりでウンザリしかけたある日、私の悩みを真剣に受け止めて、真摯なアドバイスをくれる人が現れた。

表示されているプロフィールを信じるなら、『彼女』は大学生。

何度かその掲示板でやりとりし、ある日、彼女は私を自分で用意したという別の掲示板に招待してくれた。

そこでなら、他人の目や横やりを気にすることなく、じっくり悩みを聞いてあげられるからという理由に、私は本当に嬉しくなつて、すぐさまお礼のメッセージをその掲示板に書き込んだ。

それから、毎日毎日、私は彼女に向けて日々の悩みを打ち明け続けることになる。

友達同士の些細な行き違いから、将来に対しての不安まで。

彼女は、その一つ一つに丁寧に返事をくれて、私を励ましてくれた。

そんな日々が続き、私は学校でも携帯からその掲示板にアクセスするようになり、徐々に友人達との距離が広がっていつてしまった。無視されるわけでも、嫌がらせをされるわけでもないが、彼女に比べて友人達は私のことを何も理解しようとしてくれないという気持ちが高まり、私は学校が楽しく無くなってしまった。

それについて打ち明けた私に、彼女は『学校が全てじゃないから

ね』と私を励ましてくれた。

確かに学校に行かずとも勉強はできるし、進学之道が閉ざされるわけでもない。

私は不登校になった。それについて告白しても、彼女は両親のようにそれを諫めるどころか、『学校に行かない選択をするのって、勇気があるよね』と私の選択を支持してくれた上に、勇気ある行動だと褒めてくれたのである。

私は一日中家に籠もり、パソコンの前から離れなくなった。

掲示板に入り浸り、彼女へのメッセージをそこに書き込み続けた。部屋から殆ど出ることも無くなり、家族とも顔を合わせない日々が続く。

誰の声も聴かない毎日。だけど、全然寂しくなかった。

それでも、こんな事で良いのかと思う日も、やはり無いではない。将来に対する不安が募り、とうとう居ても立つてもいられなくなつて、私はすぐさま彼女に向けて、その不安を訴えるメッセージを書き込む。

そして、すぐに返ってきた返信が、私をその不安から救ってくれた。

『不安から逃げるのは悪い事じゃないよ』

続けて記されたURLの先には、私と同じような不安を抱え、耐えきれず逃げようとしている人達の決意が記されていた。

—— 私だけじゃないんだ……。

そんな当たり前の事を知ったのと、逃げるという選択肢を与えられた事で、私はほんの少しだけ、心が軽くなるのを感じた。

『ありがとう』

その一言を打ち込んだ直後、学校の友達が家に訪ねてきた。

私は部屋から出なかつたので会わずじまいだったが、彼女らは帰り際、調理実習で作ったカップケーキや手紙を母に託し、母はそれをドアの前に置いていった。

私は母が部屋の前から去るのを待ってドアを開き、まず手紙を開

いた。

私の事を心配している。

私が何も話さないので戸惑っている。

私に会えなくて寂しい。

そんな事が、つたない言葉で綴られたその手紙を読んで、私は少し泣いた。

それからカップケーキを一つ手に取り、それを食べながら掲示板にこう書き込んだ。

『明日学校に行きます。そして友達と仲直りします。応援してください』

返事はすぐに返ってきた。

『自殺しないの?』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6187p/>

畏

2011年1月4日03時57分発行